

ネパールワークキャンプの感想から

(2019.9/17~9/24)

当初の計画ではインドラワティ村で水道パイプの設置のワークをする予定だったが、僕たちが到着する直前の豪雨で村に行く道路が通れなくなったため、ネパールの南部、インドとの国境に近いピトゥリ村の大きな川の近くで植林活動を行うことになった。日本よりずっと赤道に近い地域なので、植林をしていると太陽の日差しにかなり体力を奪われた。しかし、一緒に植えている子供達は「早く次を植えよう」といつているかのようにどんどん進んでいった。その姿に元気をもらいながら、皆で協力して 222 株の苗木を植えた。この木々が強く根を張り、大きくなることを祈るばかりだ。僅かな時間であったが、この村の人達と過ごして、僕は人として生きていく上で大切なものを教えてもらった気がする。助け合う精神。今まで助け合うなんて普通だろうと思っていたが、今回その本当の姿を見られたように思う。



村の人達がアジア協会のボランティアと共に学校給食を実施する資金のために何もなかった草原を植林して収益を得る活動を始め、村が一丸となり豊かな森を作り上げた。僕らが目にした景色はこうした活動によって作られたのだった。

東北ボランティアの感想から (2019.8/4~8/8)

今回ボランティアに参加したことで、被災地の現状に対する考え方を改めることができました。そのきっかけとなったのは、現地では出会った方々でした。

震災伝承施設で案内をしてくれた方、カリタス南相馬の語り部の方、カリタス釜石のスタッフとボランティアの方、お茶っこサロンの利用者さん、鶴住居保育園の子供たち。どの人の顔を見ても必ずと言っていいほど笑顔がありました。言葉にできない程の苦労をされ心に深い傷を負ったと思うのに、どうして笑顔でいられるのだろうと疑問に思いました。そんな思いをいさながら釜石市の震災伝承施設で展示物を見ていると、一人のおじさんに話しかけられました。そのおじさんは、「カリタス釜石さん程長く釜石を支えてくれている所はない。本当に感謝している。」とおっしゃっていました。私はこの言葉を聞いて笑顔の理由の一つは、カリタス釜石がボランティアを続けているからだ実感しました。ボランティアとして人々と関わっていくと町に次第に笑顔が広がっていき、また町の人々の笑顔がボランティアする人の笑顔になる。そんな優しさの輪が、私たちが見た笑顔なんだろうなと思いました。

